

唐古・鍵遺跡出土品1,921 点が、国の重要文化財に指定

国の文化審議会は、3月9日に重要文化財の指定について、唐古・鍵遺跡（平成11年国史跡）の出土品を文部科学大臣に答申しました。既に、唐古・鍵遺跡の第1次調査（昭和11・12年）の出土品（内訳 京都大学所有（119点）と奈良県立橿原考古学研究所附属博物館所有（40点））は、昭和42年（1967）に指定されていましたが、今回、奈良県磯城郡田原本町が所有している唐古・鍵遺跡の出土品1,921点が、新たに国の重要文化財に指定されました。

新たに指定された出土品（1921点）の内訳は、土器・土製品（803点）・木器・木製品（203点）・石器・石製品（633点）・鑄造関連遺物（134点）・金属製品（19点）・ガラス製品（34点）・骨角牙製品（83点）・繊維製品残欠（7点）・稲穂束残欠（1点）・炭化食物（4点）です。

今回指定された重要文化財の一部は、4月17日（火）～5月6日（日）に東京国立博物館で開催される「平成30年新指定国宝・重要文化財」展で公開されることになっています。

（文化審議会）

1 答申内容

重要文化財（美術工芸品）の指定

<考古資料の部>

奈良県唐古・鍵遺跡出土品 一括

2 説明

奈良県唐古・鍵遺跡出土品 一括

田原本町埋蔵文化財センター保管

奈良盆地のほぼ中央部に位置する、弥生時代を主とした大規模な環濠集落からの出土品一括。大和地域の土器編年の指標とされる土器、吉備や尾張など遠隔地から搬入された土器を始め、楼閣建物を線描した絵画土器片や、銅鐸の鑄型外枠や送風管（鞆の羽口）などの鑄造関連遺物、褐鉄鉾容器に納められた硬玉勾玉など、内容は極めて多彩である。本件は、弥生時代の生業や金属鑄造、祭祀や精神文化を復元する上で欠かすことのできない資料である。（弥生時代から古墳時代）

